

紀元前1世紀に つくられたガラスの管玉。 それは古代人の 地位の象徴であった。

日本最大規模の遺跡、
佐賀県「吉野ヶ里遺跡」は、
紀元前3世紀から紀元3世紀までの
約600年間を中心に栄えた大集落でした。
この遺跡にある北墳丘墓から
発見された14基の甕棺墓のうちの
1基から、銅剣と共に79個の
コバルトブルーのガラス製
管玉が見つかりました。
これらの管玉はネックレスか
王冠だったと考えられています。
右のネックレスは管玉の一部を
紐に通して再現したものです。

名称：ガラス製 管玉
管玉1個のサイズ：長さ6.8cm～2.0cm
年代：弥生中期
保管：国（文化庁）
撮影協力：佐賀県立博物館

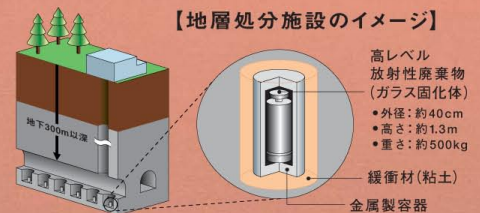


ガラス固化体
放射性物質は、
ガラス原料と高温で
溶かし合わせるため、
ガラスと一体化した
状態で閉じ込められます。

長期にわたり安定した性質をもつガラス。 だから、高レベル放射性廃棄物は ガラスと一緒にしっかり固めて地層処分します。

原子力発電の使用済燃料は、リサイクルに努めても放射能レベルの高い廃液が残ります。この廃液をガラスと混ぜ合わせ、ステンレス製の容器に入れて固めたものが「高レベル放射性廃棄物（ガラス固化体）」。

ガラスは水に溶けにくく、長期にわたり変質しにくい性質をもっています。色あざやかな古代ガラスの管玉から色が溶け出さないように、ガラスの中に均質に取り込まれた放射性物質は、割れても外に出てくるようなことはありません。



火山や活断層などの著しい影響が予想される場所を避けるとともに、廃棄物のまわりには人工的なバリアを施して地下水に触れにくくするなど、生活環境に影響を及ぼさないように隔離します。

候補地を全国から公募しています。

高レベル放射性廃棄物の最終処分施設建設地の選定は、3つの段階を経て行います。NUMO(ニューモ)では、その第1段階である概要調査地区(ボーリング等による調査を行う地区)の選定にあたり、「高レベル放射性廃棄物の最終処分施設の設置可能性を調査する区域」を全国の市町村から公募しています。

応募要領のほか、応募をご検討いただくための資料として、●処分場の概要 ●概要調査地区選定上の考慮事項 ●地域共生への取組みを取りまとめています。資料のご請求やお問い合わせは、下記までどうぞ。

処分地選定、3つのプロセス



詳しい情報をお知りになりたい方は、
www.numo.or.jp



NUMO(ニューモ: Nuclear Waste Management Organization of Japan)

原子力発電環境整備機構 立地広報部立地グループ

〒108-0014 東京都港区芝4-1-23 三田NNビル2階 電話：03-4513-1116 FAX：03-4513-1299